

永田町 フィールドノート 歴代首相の思い出語る

15日午前、国会内の民主党控室。衆院当選1回の議員の会合で、藤井裕久・党最高顧問（75）が歴代首相の思い出を語った。1955年に旧大蔵省に入省、佐藤、田中両内閣で官房長官秘書官も務めた経歴からの「指導者論」だった。

まず、日ソ国交正常化を果たした鳩山一郎・元首相を取り上げ、『『死んでもソ連に行つて話をつける』という信念。命がけの政治家がいた事実は知って欲しい』と訴えた。「寛容と忍耐」を掲げた池田勇人・元首相を「（寛容と忍耐とは）全然逆で、剛毅の人。大平正芳官房長官が良くリードした」と振り返り、佐藤栄作・元首相の実績を「人気はなかったが、やる事はやった」と強調。田中角栄・元首相を「よく勉強した。鋭いし、心に触れるところがあった」と、懐かしんだ。

1時間近い熱弁では、小沢民主党代表ら「現役」への言及は避けた。唯一、池田政権などとの比較で、今の福田政権を「首相と官房長官と一体でなければ駄目だ」と批評した程度。藤井氏はこう語る。

「生きている人は当たり障りがある。（論評は）鬼籍に入った人だけだよ」